

保育士・幼稚園教諭養成における情報教育の授業設計の試み

保田 洋* 吉井 隆** 千原 智美***

Attempt to Design Lessons on Information Education in Nursery Teacher and Kindergarten Teacher Training

Hiroshi YASUDA*, Takashi YOSHII** & Satomi CHIHARA***

Abstract

Now that it has become an information society, various information education equipments have been introduced and used at childcare and early childhood education sites. In this situation, information education is important in nurseries for nursery teachers and kindergartens. Therefore, We conducted a questionnaire on the use of information education equipment for the nursery teachers and the kindergarten teachers who worked on the field. Based on the results, we design practical lessons and we reported them.

要 旨

情報化社会となった現在、保育・幼児教育の現場では様々な情報教育機器が導入され、利用されている。こうした現状から、保育士・幼稚園教諭養成において情報教育は重要である。そこで、現場で働く保育士および幼稚園教諭に情報教育機器の利用についてアンケートを実施した。その結果をもとに実践的な授業設計を行ったので報告する。

Key Words : Instructional Design, Syllabus

キーワード：教育設計，シラバス

1. はじめに

コンピュータをはじめとした情報機器に対する適用や利用、そしてその関心は、幼児期にも既に向けられている。例えば、文部科学省は、平成14年度の学習指導要領改訂で、小学校では「総合的な学習時間や各教科でコンピュータや情報通信ネットワークを活用する」項目が加えられ、中学校では「情報とコンピュータ」が必修となった(文部科学省, 2002)。そして、幼稚園や保育園では、パーソナルコンピュータ(以降、パソコンと表記する)教育をアピールする園が増加している。しかし、保育現場では、既成の幼児用ソフト

を操作することのみに終始し、その活用が限定的であることが多いことが指摘されている。また、こうした背景のなかで、保育者の情報機器に対する経験や知識が不十分であることも指摘されている。しかし、保育現場においては、保育者は日々パソコンなどの様々な情報機器を使用している。例えば、事務文書作成や保育業務(園だよりなどの配布物、健康管理、住所録などの個人情報管理など)などに使われている。そのため、保育者は情報機器に関する基本的な操作技能や知識を身につけることが求められているであろう。しかし、情報機器の中には、機能が豊富な一方で操作手順が複雑なものや、見たままに直感的な操作が可能な機

* 本学助教

** 本学教授

***本学准教授

報告(資料・報告)：2017年12月22日受付 2018年1月26日受理

器もあるため、それらの機器が表示する指示に従うだけの使用法に留まることも想定される。多様な可能性をもつ情報機器を独創的に使用するためには、それらの機器の機構や構造、特性などを理解し、目的に沿って適用することが求められるであろう。

現代の多くの人たちは何らかの形で情報機器を利用し、それらに関心を寄せている。例えば、携帯電話は日常的に活用されているアイテムの一つとして単なる音声通信機能をを超えて、メール、静止画像や動画画像撮影などの情報端末機器として活用されている。さらに、パソコンを用いたホームページ閲覧、チャットやブログなどの活用など、現代の生活と切り離せないものとなっている。しかし、利用者の中には、情報機器使用のモラルに対する知識や認識が十分とは言えない者もいるであろう。著作権を意識せずにホームページ上の画像を安易に利用することや、興味本位で有料サイトに関った結果、多額の料金を支払う結果となることなど、モラルや倫理を軽視した使用が指摘されている。これらを総合すると、情報機器を道具として保育に活用する保育実践者を養成するためには、情報機器に対する基礎的知識と技能の習得、機構や特性などの理解と適用、使用におけるモラルと倫理を中心とした指導が、現在求められているといえる。こうした現状から、本学Ⅱ回生が後期で履修する「教育方法と技術」の科目において実践的な授業設計を行った。

2. 実践的な授業設計

A) コンセプト

本学の「教育方法と技術」の授業目的は、『具体的な実践できる教育方法を学ぶとともに、今日における子どもの学びを支える視点を身につける。また、教育現場におけるICT (Information and Communication Technology) が進む中、情報機器の効果的な活用方法を学ぶ。』である。情報機器の効果的な活用方法を身につけさせるため、以下の点をコンセプトとして掲げた。

- ①情報処理科目で行われている内容をシラバスで確認し、内容が重複しないようにする。
- ②保育・幼児教育の現場で実際に情報機器端末を使う作業について現場から聞き取り、実際の現場と同様な内容で実践に近い教育を行う。
- ③保育・幼児教育系現場で不足と思われる情報処理の能力について現場から聞き取り、今後必要とされていく能力を身につけさせる。

B) 保育・幼児教育現場へのアンケート

実践的な学びの授業を行うにあたり、保育・幼児教育現場での現状の情報機器の使われ方、今後必要とされる情報機器の使われ方を知るため、アンケート項目は以下のようにした。

- ①職場でのパソコンの利用状況 (選択回答)
- ②パソコンの利用内容 (自由記述)
- ③情報機器の今後の必要性 (選択回答)
- ④情報機器に対する学習意欲 (選択回答)
- ⑤情報機器に対し学びたい内容 (選択回答)

現場で働く保育士および幼稚園教諭にGoogleFormsを利用し、Webからアンケート収集を行った結果、33名から回答が得られた。

C) アンケート結果

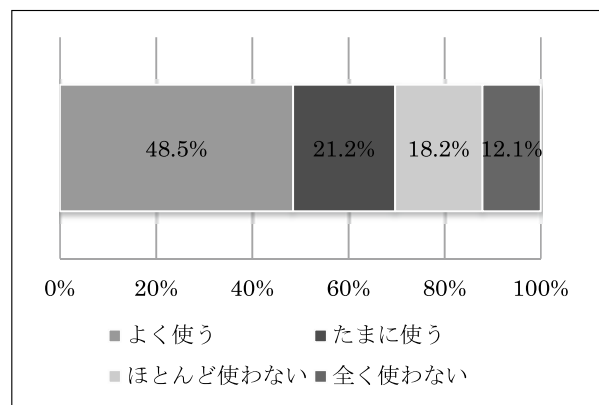


図1 設問①の回答状況
(職場でパソコンなどを使うことはありますか?)

表1 設問②の回答状況
(どういう時に使われますか?)

記述内容
オリジナルシステムで常にパソコンで利用している
お便り (クラス便り、学年便り、園便り)
パワーポイントでの資料の作成
ビデオ編集
メールの作成、閲覧
レポート作成
衣装のサイズの記録
教材作り
曲の管理
劇の台本作成
資料の作成 (月案、週案、日誌)
研修会の資料作成
行事ごとの手紙
行事の計画案制作

行事記録
指導案
指導計画の作成
写真管理・編集
出席数の管理・入力
年間カリキュラムの作成
文集の作成
保護者への手紙

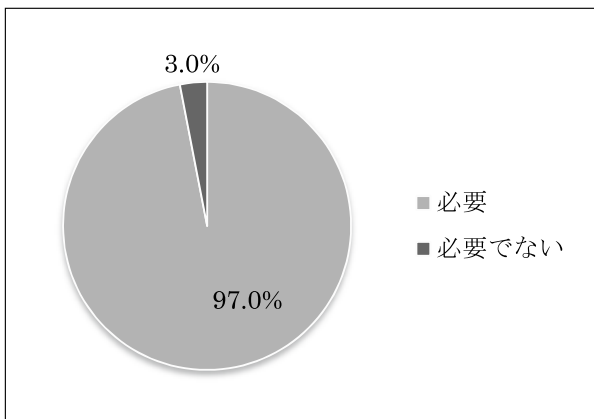


図2 設問③の回答状況
(パソコンなどの情報機器は今後職場では必要なアイテムになってくると思いますか?)

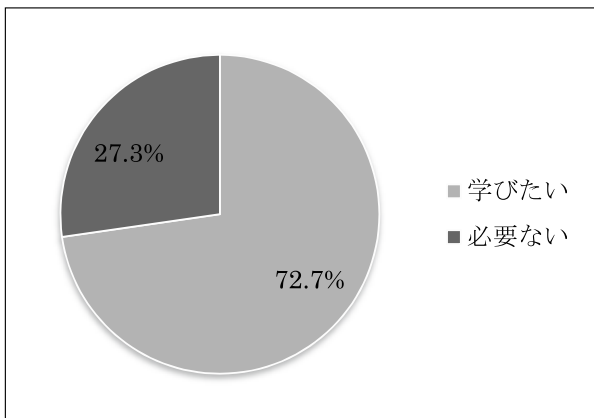


図3 設問④の回答状況
(パソコンなどの情報機器の使い方を学びたいと思いますか?)

表2 設問⑤の回答状況
(どういうことを学びたいですか?)

記述内容
エクセルの利用方法
動画編集
音楽編集
卒園式や参観日で流せる資料の作成方法
書類の作成方法(園便りの作成、ポスターの作成)
写真の編集・整理
パワーポイントの利用方法
ワードやエクセルを使うときのショートカットキー

アンケート結果から以下のことが分かった。

- ・図1の設問①のアンケート結果から約9割の人が職場でパソコンを使っている。
- ・表1の設問②のアンケート結果から主に資料の作成などでパソコンを使っている。
- ・図2の設問③のアンケート結果からほとんどの人がパソコンなどの情報機器は職場に必要なアイテムであると考えている。
- ・図3の質問④のアンケート結果、表2の質問⑤のアンケート結果から、「動画の編集」や「音楽の編集」や「エクセルの活用方法」や「パワーポイントの利用方法」などといったパソコンの活用方法を学びたいことが回答から読み取れる。

D) 授業設計

本学で開講している情報処理科目の授業内容および履修状況は表3の通りである。

本学の情報処理教育の中で情報機器の利用に関するモラルや素材などの利用時の著作権に関する教育については、全学科に対して開講している特別演習という科目の中での指導や画像の利用時での説明だけのため、情報教育としては不十分である。

表3 本学の情報処理科目の授業内容と履修状況

授業科目	授業内容	履修状況
情報処理ⅠA	タッチタイピングの習得と同時に、Microsoft Wordを利用し速く正確に一般的なビジネス文書の作成を学ぶ。	ほぼ全員履修
情報処理ⅠB	単に文章を作成するだけでなく、Microsoft Wordを利用し高度な文書の作成を学ぶ。	ほぼ全員履修
情報処理ⅡA	表計算ソフトのMicrosoft Excelを利用し、数値データの処理、グラフの作成を学ぶ。	ほとんど履修しない
情報処理ⅡB	Microsoft PowerPointを利用しプレゼンテーション資料の作成、Microsoft Accessを利用し、データベースの操作を学ぶ。	ほとんど履修しない

情報処理ⅠA、情報処理ⅠBでMicrosoft Wordを使った一般的な文書の作成能力は習得できているが、保育・幼児教育現場で必要となる園便りのなどに特化した文書作成能力の養成は授業で行う必要がある。

また、Microsoft ExcelやMicrosoft PowerPointに関しては、ほとんどの学生が情報処理ⅡA、情報処理ⅡBを履修しておらず、また、高校までに学んできた内容を考えると、応用的な利用方法や実際の現場で活用できる内容を教育する必要がある。

そのため、幼児教育保育学科の学生に対して開講する「教育方法と技術」では、以下の内容を15回の授業の中に取り入れた授業設計を行った。

- ①情報機器の利用に関するモラルについて
- ②素材などの利用時の著作権について
- ③Microsoft Wordを利用し園便りの作成
- ④Microsoft Excelを利用し座席表や出席表などの保育・幼児教育系現場に必要な一覧表の作成
- ⑤Microsoft PowerPointのアニメーションを利用し電子紙芝居の作成、現場で使える教材の作成
- ⑥Windowsの標準機能のムービーメーカーを利用しビデオ編集方法および音楽編集方法を学ぶ

3. まとめ

今回、「教育方法と技術」に関する授業設計は概ね達成できたであろう。しかし、他の科目とどのように関連するかは、今後の検討課題である。つまり、「教育方法と技術」を通じて獲得した情報機器に対する知識や技術に関する学生の自己評価が、保育場面における情報機器の適応という意識が向上するののかについて、検討しなければならない。

今後さらに、情報機器を保育に生かす保育者を養成するために、本学の情報教育の内容に不足している点や強化すべき点などを明らかにしていかなければならない。

4. 参考文献

- 柄田毅・日名子孝三・村井潤一郎・澤江幸則, 2005, 保育学科における情報教育のあり方についての検討(1), 文京学院大学研究紀要7, 169-181.
- 文部科学省, 「教育の情報化に関する手引」について, 2010.
- 谷中優, 2010, 幼稚園におけるICT活用の可能性に—創造性を育むアプローチ—金沢星稜大学人間科学研究第4巻.

藤田裕子・糠野亜紀・新谷幹朗・金田重郎・井上恒男, 2005, 保育現場における情報機器・サービスの活用状況について, 全国保育士養成協議会第44回研究大会研究発表論文集, 116-117.

市毛愛子・藪花貴子, 2005, IT技術を活用した保育業務と保育実践の連携, 全国保育士養成協議会第44回研究大会研究発表論文集, 114-115.